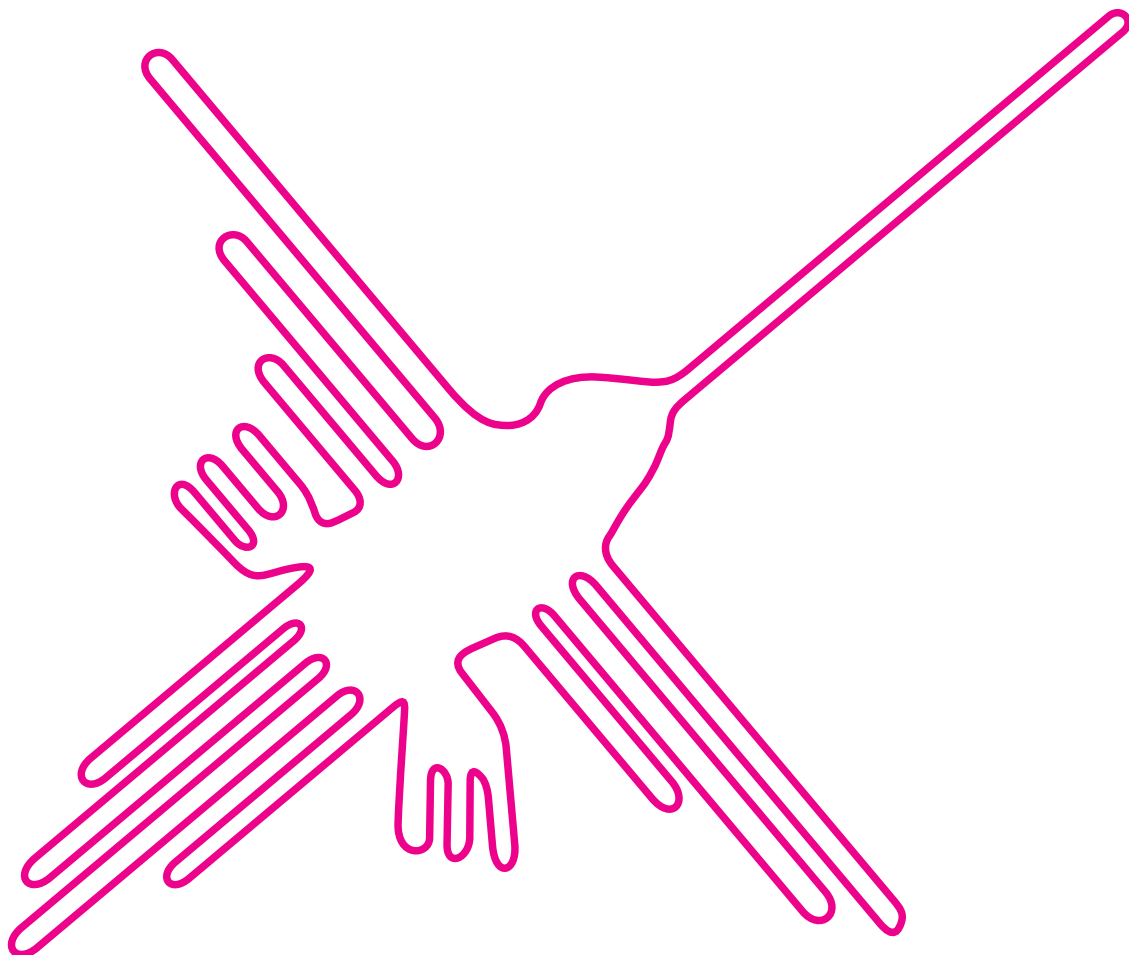


COM^{コム}

Vol. 12 No. 2 第2号

2001.12



愛知大学情報処理センター

Information Processing Center of Aichi University

情報処理センター利用案内

◇サービス時間〈月～土曜日〉

(※都合により変更する場合があります。掲示をご覧ください。)

名古屋校舎

期 間	第1・2・3実習室	マルチメディア教室 (中央教室棟)	E201教室 E202教室 (東教室棟)	マルチメディアコーナー 〈メディアゾーン〉 (図書館棟2F)
通常講義 定期試験	9:20～19:50	講義利用のみ	9:20～18:10	9:20～20:00
補講 集中講義			(試験前)	
	(試験後)		9:20～19:00	
上記以外			休み期間は原則閉室	9:20～19:00

豊橋校舎

期 間	420教室 (オープンアクセスルーム)	メディアコーナー (図書館)	413教室・421教室・ 423教室・424教室・ 国際コミュニケーション学部パソコン教室(523教室)
通常講義 定期試験	9:10～21:00	9:20～21:00	講義利用のみ
補講集中講義	9:10～19:00	9:20～18:30	
上記以外	9:10～19:00	9:20～18:30	

車道校舎

期 間	実 習 室
通常講義 定期試験	16:00～21:30
補講 集中講義	16:00～20:00
上記以外	

■センター閉室日 / 日曜日・祝日・夏期休暇期・年末年始・創立記念日(11/15)・入試期間

◇メールリストサーバ

アドレス	list@aichi-u.ac.jp
subjectの記述	meibo(教員), meiboj(職員)
郵送される資料	電子メールアドレス

はじめに

情報処理センター所長 小津秀晴

情報処理センターの教育支援業務として情報処理教育、コンピュータを活用した教育あるいは学生の自主学習のため、情報処理機器の設置およびその管理を行ってきている。また、情報処理センター実習室でのマルチメディア機器の活用をサポートしている。一方、本学ではファカルティーデベロップメント(FD)への取り組みが行われつつあり、教育の更なる充実が進められようとしている。教育の充実には、全学、学部(学科・専攻)、各科目毎の教育目標達成に向け、各教員の教育内容・教育方法の工夫、教育力量の向上と共に、講義室・実習室のハード面における整備およびカリキュラム構成、授業に合った教室の配置・履修者数の割り当、授業支援等のソフト面での教育環境の充実が重要である。

各大学では、マルチメディア機器を利用した教育実践が行われており、教育の質的向上と教育機会の拡大がなされている。ビデオ、OHC等の教材提示機器の利用に加え、パソコンとの連携により、電子教材を利用した教材の提示、シミュレーションの実演、ネットワーク環境を利用した遠隔授業等が行われている。また、教材の電子化は、Webを利用したシラバスの公開、事前学習および事後学習のための資料公開、Web上でのQ & Aの利用等、更には教員間・大学間での教材の共有化も可能にしている。本学でも、複数の教員がマルチメディア機器を有効活用した教育を行っている。

教育目標を達成する上で、教室のハード面の整備も効果的な要素である。その一つとしてマルチメディア機器の整備が、教育方法の幅を広げることになる。本学では、大教室にパソコン・ネットワークと連動したのマルチメディア機器が整備されつつある。もちろん、科目によっては、教育目標達成のためには、マルチメディア機器の利用を必要としない科目も存在すると思う。しかしながら、マルチメディア機器の活用により、少なくとも視覚的理解、導入教育には明らかな学習効果を発揮できるものと期待できるなど、多様な教育方法を可能とすることになる。今後、他の教室でも使用状況に見合った形態のマルチメディア機器の整備が望まれる。そのためには、各教員の教育方法、特にマルチメディア機器を利用した教育に関し、教育目標達成の観点から学習効果の評価も含めた情報交換の場が必要になると思われる。その中で、今後の教育環境として各教室のハード面の整備に関する議論が深まることが期待される。

ソフト面では、カリキュラム構成や教学システムの改善に加え、教材・資料の電子化、授業での提示、Web上への公開等の活用方法・活用例の紹介と共に、教材準備を支援する

体制の整備が重要であると考え。現在、教材作成は主に教員が行っているが、より良い教育を目指す教員に対し、教材作成の労力負担を軽減する授業支援体制の充実が必要であると思う。

情報処理センターとしても、情報関係設備の設置・管理とも関連し、学内の各機関と連携しながらマルチメディア機器を利用したハード・ソフト両面に亘る教育環境の整備に向け一定の役割を担う必要があると思う。より良い教育環境が実現され、多様な教育方法により、本学の教育が更に充実していくことを期待する。

目 次

はじめに..... 所長：小津 秀晴

1. 論文

Pythonにおける動的グラフィックス.....	有澤 健治.....	1
わが国におけるシステム監査の歴史.....	宇佐美 博.....	33
情報倫理 / 情報モラル教育の問題.....	太田 明.....	63

2. COM コーナー

Chinese Writer による中国語情報処理入門.....	土橋 喜.....	79
誰でも出来るマルチメディア授業.....	奥山 徹.....	119

3. センターだより

1 情報処理センターにおける委員会活動.....	127
2 情報処理センター主催行事.....	128
3 情報処理センター活動報告.....	131
4 情報処理センター委員会構成員.....	133
5 編集後記.....	134

原稿募集要項

表紙の図柄はナスカの地上絵（ハチドリの絵）を図案化したものです。

作者 角 谷 和 昭

（情報処理センター元学生相談員）